

2016年漁期におけるヤリイカ冬季来遊群の漁況予測結果

2016年漁期（2016年8月–2017年2月）に青森県–北海道渡島–岩手県で漁獲されるヤリイカ冬季来遊群の漁況予測を行ったので、その結果をお知らせします。

【予測結果】 約2,400トンと前年を上回る

予測漁獲量: 2,401トン

前年（2015年8月–2016年2月）の漁獲量1,529トンに比べて157%

直近5ヶ年（2011年–2015年）の平均漁獲量1,203トンに比べて200%

【解説】

1. 漁獲状況の推移 1985年に696トンと最低となって以降、増加に転じ2000年頃まで2,000–4,000トンで推移した。2000年以降は減少傾向となり、2002年と2007年を除き、1,000–1,500トン程度で推移し、2008年以降は1,000トン前後、2014年1,696トン、2015年1,529トンであった。

2. 漁況予測の方法

予測対象: 2016年8月–2017年2月のヤリイカ冬季来遊群の漁獲量

予測海域: 青森県–北海道渡島–岩手県

予測方法: 説明変数として当該海域の漁期序盤（8–11月）の漁獲量Aと、目的変数として漁期全体（8月–翌年2月）の漁獲量Bについて回帰分析を行った結果、有意な回帰が認められ（ $p<0.001$ ）、切片および傾きともに有意であった（ともに $p<0.001$ ）。従って、 $B=3.50\times A+535.71$ （寄与率82.1%）という回帰式を得て、下記(1)–(3)の漁獲データを代入して求めた(図1、2)。

(1)青森県の漁獲データ: 青森県全域の8–11月の漁獲量(日本海沖合底びき網漁業を除く)。

(2)岩手県の漁獲データ: 岩手県全域の8–11月の漁獲量。

(3)北海道の漁獲データ: 北海道渡島海域の8–11月の漁獲量。

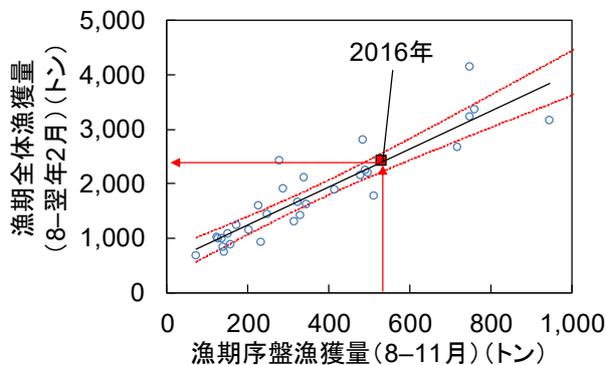


図1 漁期序盤と漁期全体の漁獲量の関係

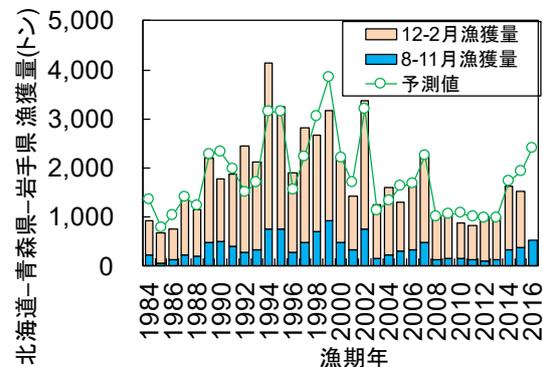


図2 青森県–北海道渡島–岩手県における
ヤリイカ冬季来遊群の漁獲量の推移及び予測値